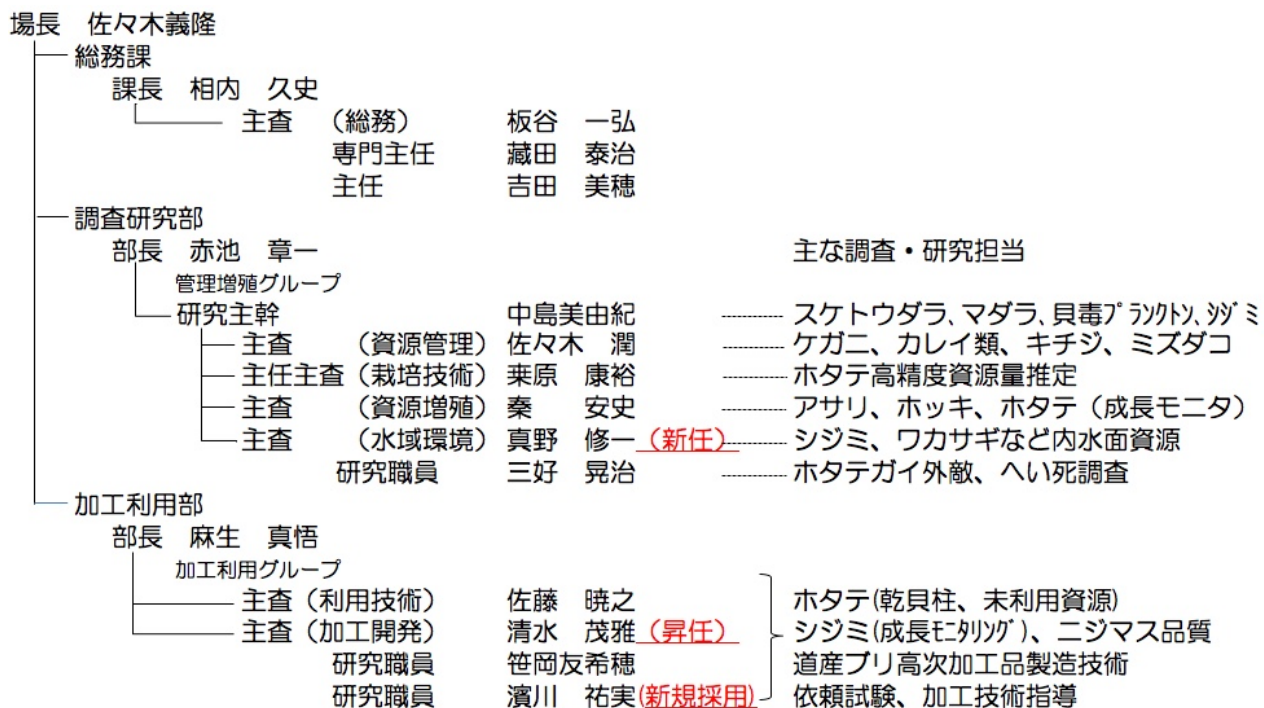


今回は平成 31 年度の網走水試の組織体制とマガレイの漁況予測の概略についてご紹介いたします。

《組織体制と業務担当》平成 31 年度の網走水試の組織体制と各職員の業務担当は下図のとおりです。調査研究部研究主幹の楠田はさけます・内水面水産試験場内水面資源部に転出しました。楠田が務めた内水面資源に係わる業務については、さけます・内水試道東センターから着任した真野主査（水域環境）が担当します。また、紋別市にある加工利用部では、武田主査（加工開発）が中央水産試験場加工利用部に転出し、後任には清水が昇任し任に当たります。さらに加工利用部には新規採用で濱川が着任しています。今後とも、ご指導ご協力のほど、よろしくお願い致します。



《マガレイの漁況予測》網走水試では、稚内水試と共同で調査結果をまとめマガレイの漁況予測を行っており、先月の3月25日付けで2019年（平成31年度）の漁況予測をホームページに掲載しました*。図1は道北日本海からオホーツク海におけるマガレイの漁獲量（1994年～2018年）の推移を示しています。2018年度は12月までの途中集計ですが、前年同期の75%に減少しました。オホーツク海の夏漁は、3歳魚が主体で、4歳魚も多く漁獲される傾向があり、本漁期の主体である2019年度の3歳魚（2016年級群）の資源量は、前年より多いものの、平年よりやや少ないと予想されています。しかし、4歳魚（2015年級群）の資源量は平年より非常に少ないと予測されることから2019年度の夏漁の漁獲量は前年度並と思われる。秋漁については、2019年度の3歳魚（2016年級群）の資源量は平年よりやや少ないですが、前年よりは多いと予想されています。しかし、漁獲サイズに成長した2歳魚（2017年級群）の資源量は低水準と予測されるため、2019年度の秋漁の漁獲量は前年度並みと予想されています。

（網走水試 佐々木義隆）

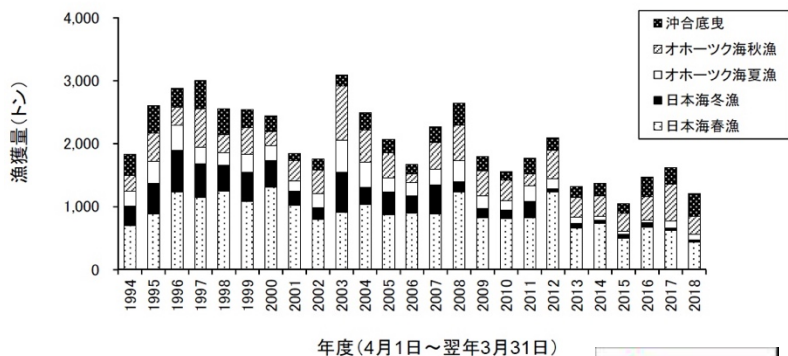


図1 マガレイ漁獲量の推移



* http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/abashiri/section/zoushoku/att/2019magarei_yosoku.pdf